令和5年度　学校自己評価システムシート

本庄東高等学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。特に勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。
重点目標	1．常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 2．進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 3．学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学　校　自　己　評　価							
	年　度　目　標				年　度　評　価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりとした将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できるよう、学力・実力を付ける。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	学級報告会や面談などで進路情報を提供したり、進路に関する相談に対応したりすることができた。希望者対象の補習や添削指導の実施に加え、新課程入試を見据えて「情報Ⅰ」の講座も長期休業中に開講できた。また進路講演会やキャリア教育講演会などの進路行事に加え、１年生対象の大学出前授業、２年生対象の小論文講座なども学年主導で実施した。３年生対象の小論文・プレゼン・実技指導が充実し、今年度も多くの年内受験生のニーズに応えることができた。	B	現役合格率のさらなる向上と。国公立や私立大学への合格者の内容充実を図るようにする。そのために東大プロジェクト補習だけでなく、基礎的な内容の補習もより充実させていく必要がある。早い段階からの受験に向けた環境づくり・意識づくりを継続的に行い、現役での志望校合格にこだわった指導をしていく。
2	希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実状にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	授業担当者が各コース・クラスの特色を的確に把握したうえで、実情に合った授業展開を行うことができた。正課の授業だけでなく、朝と放課後の小テストによっても、基礎学力の定着を図ることができた。オンライン方式も含めた外部の教科指導研修会への参加によって、教科担当者の指導力向上に努めた。	B	変化の激しい現代社会の中でたくましく生き抜いてゆく力を養うため、生徒の興味・関心の幅を広げ、課題を自ら発見し、多角的に考察する学びの機会をさらに拡充してゆくことが重要である。
3	体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次回の行事に向けた指導ができたか。	感染症対策としての行動制限が緩和され、コロナ禍以前の学校行事を取り戻し始めている。制限下においてできなかったことをすべて元に戻すのではなく、新たなアイディアや取り組み方を生み出すことができた。修学旅行においては、生徒の興味・関心に基づき行先を選択することにより、学びの意義を深めることができた。４年ぶりの開催となる教育講演会は、ライブ配信・アーカイブ公開を行うことにより、生徒のフィードバックや保護者との分かち合いも可能になった。臨時ではあるが、本校卒業生による「南極教室」の実施は、生徒にとって貴重な学びの経験になったと考える。	B	引き続きクラス・学年の融和を目標とし、生徒の思い出に残るさまざまな行事を開催していく。体育祭や学園祭については、さらに活気あふれる行事になるよう、また、生徒の学びにつながるような行事開催も同時に工夫していく。次年度に向け、生徒と保護者が一緒に聞いて考えることのできる講演会の開催を計画している。
4	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	新型コロナウィルスが5類感染症に移行され、通常の活動に戻りつつあるものの、依然として活動に関しては感染症（コロナ・インフルエンザ）に配慮していかなければならない状況である。生徒の活動も効率化を図り、時間の使い方も各クラブで工夫されているようで、学業への負担も以前に比べると軽減されているようである。	B	生徒の活動も積極的になり、主体的な取り組みができる生徒が増えてきているように思われる。今後は、取り組みが実績にのみならず、進路実現に向けての力につながるような環境づくりをしていくとともに、心の教育を再度見直していければと考えている。